

## アントン・フガーの企業と時代 (14)

### —— 限界までの戦争資金融資 ——

松 田 絹

#### 1

1542年7月12日にフランス国王フランソワ1世が、ハープスブルク家に対しトルコと提携して開始した第4次戦争は、ハープスブルク家を両面戦争に陥れた。トルコ戦の帝国総司令官であったブランデンブルク選帝侯ヨアヒム2世が7月14日にラッケンドルフ Rackendorf の陣営からニュルンベルク帝国議会に送った報告は、彼の軍隊がキリスト教徒から援助を受けたトルコ軍に悩まされた他に、領邦諸国の軍備負担に対する無関心によって苦しんだことを示した。フガー家の所領キルヒベルク伯領ですら、僅か13名の騎兵と25名の歩兵の派遣が遅れていた。だが帝国国庫官は期限の来た強制徴発をキルヒベルク伯領に対し強行するのを差し控えた。何故なら国王フェルディナントはその南東遠征を続けて行くためにフガー社から3万グルデンの前貸を受けようと考えていたので、フガー家の協力を阻害するような措置は避けなくてはならなかった。

フランソワ1世が軍事行動を起こす直前、ネーデルラント摂政マリーアは6月30日に「われらが祖父、皇帝マクシミリアーンの時以来、ネーデルラントがこのように危険なことはなかった」と断言した<sup>1)</sup>。ズント通過を確保するためにデンマルクを攻撃する計画は、沿岸地方をデンマルクの攻撃から防衛する対策に代わった。ヴァンドーム Vendôme 公はピカルディ Picardie からアルトワとフランデルンに向かって進出した。フランス王子オルレアン

公 duc d'Orléans はフランソワ・ド・ギーズ François de Guise 公の手引きでマース Maas 川からルクセンブルク Luxemburg の国境を脅した。だが最も危険と見えたのは、フランスと同盟したゲルデルンの元帥マルティーン・ファン・ロセム Martin van Rossem のブラバント Brabant 攻撃であった。彼の率いるドイツ傭兵、デンマーク兵、スウェーデン兵及びネーデルラントの亡命者は、マース川中流から無防備の北ブラバントを横切ってアントウェルペンとアントワープに向かった。彼の軍隊がフランドルでヴァンドーム公と握手したなら、ネーデルラントは真二つに分断されてしまう。

1) K. Brandi, *Kaiser Karl V.*, S. 396.

そこで摂政マリーアはオラニエ Oranje 公に、ベルヘン・オブ・ゾーム Bergen-op-Zoom 経由の安全な道を通してアントウェルペンの防衛に急行するように命じた。命じられた進軍ルートを守らなかったオラニエ公は、予期せぬ敵軍と遭遇して手痛い敗北を喫したが、7月24日の夕方、敵よりも先にアントウェルペンに到着出来た。マリーアはアントウェルペン防衛のための資金援助をガスパル・ドゥッチ Gaspar Ducci に求めた。ペルニッツは「カルル5世並びにその妹マリーアが正しい助言を受けていたなら、古い上ドイツの友人をもっと引き入れたろう」と述べている<sup>2)</sup>。彼はさらにこう記している、「トレードのヨプスト・ヴァルターのように彼の同僚ファイト・ヘルルが宮廷でフガー家の支配人として、しっかり働いていたなら、アントウェルペン包囲の際に王室に信用されたであろう。」<sup>3)</sup> いずれにせよマリーアは過大な借金によってシュヴァーベンの金融界に従属することを警戒したのであった。

2) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil I, S. 243.

3) G. v. Pölnitz, *a. a. O.*, 2. Dd., Teil I, S. 243.

1542年7月シュマルカルデン同盟の指導者であるザクセン選帝侯とヘセン方伯は、皇帝の味方である旧教徒のブラウンシュヴァイク公ハインリヒの領内に侵入し、敗れた公はバイエルン公ルートヴィヒの許に逃れた。シュマルカルデン同盟の指導者たちは7月14日に皇帝に出した釈明書で、彼らの行動をこう説明した。ブラウンシュヴァイク公は、ゴスラルに対する帝国追放を皇帝が停止したにも拘らず、皇帝の指令を無視して、ゴスラル市の市民、財産及び森林に対して不法な措置を取ったからである、と。国王フェルディナントは8月に、シュマルカルデン同盟と同調しているアウクスブルク、ウルム及びシュトラースブルクの3帝国都市に対し、ブラウンシュヴァイク公と争っているシュマルカルデン同盟の軍隊に対する援助金を止めるように命令した。

これと同時に国王フェルディナントは顧問たちを督励して軍備の充実に全力を挙げた。火薬、軽騎兵用馬匹及び運搬用驢馬の調達は、すべてフガー社に対する融資要請となった。1542年8月2日には運搬用驢馬購入のための1,290グルデンについて、8月4日には100ツェントナーの小銃火薬の支払について、8月9日にはハンガリア遠征中フガー社によって維持さるべき100頭の馬について、フェルディナントはフガー社に次々と要請を行なった。さらにフェルディナントはブランデンブルク選帝侯ヨアヒム2世のトルコ遠征を遂行させるため、顧問ツォット博士にアウクスブルクで15,000グルデンの資金を調達するように命じたが、この試みが失敗に終わったので、国王は9月1日にフガー、パウムガルトナー及びナイトハルトの3社に各4千グルデンの融資を要請した。収税長官はトルコ遠征の全費用を197,480グルデンと見積ったが、官吏の杜撰なやり方を知っているアントンは、この見積りに重きを置かず、9月中に度重なる融資要請があったにも拘らず、簡単に財布の紐を緩めることなく、慎重に振舞った。

アントンのこの態度は正しかった。フェルディナントはベーメンの御料局秘書官フロリアン・グリースペック Florian Griespeck がフガー社に2千グ

ルデン借りていることを認めて、9月1日にその返済についてザンクト・ヨアヒムスタールの収入を指定した。しかしナーポリの莫大な負債については、国王が定期金を譲渡するという会社の提案をフェルディナントは拒否した。イドリアの古い国王の債務も清算されなかったし、会社のハンガリアの債権についても、フガー社は1542年9月に11,642グルデンのノイゾール、テッシェン、シェムニッツ及びクラカウの古い債権及びその他の追加請求を提出した。

国王フェルディナントは1542年7月以来上オーストリア政府と大口借款の計画を討議した。10月中旬に国王は顧問のヨハン・ツォットとイエルク・イルズング Jörg Ilsung をインスブルックに派遣して、この計画を相談させた。40万グルデンという大口借款のため上オーストリア政府の財政事情を調べた両顧問は、次のような実態を知った。政府の現金債務は209,225グルデン、年支払利子は12,000グルデン、また銀の引渡し義務は143,642マルクであった。現金債務の返済は5年先き、銀債務の返済は8年先きのことであった。フガー社はラテンベルク精錬所で1542年初めに160,632グルデンの貨幣債権を有した。加うるに15,734マルクの銀と22,799ツェントナーの銅の未収があった。これに利子を加えると、フガー社に対するラテンベルクの返済義務は、貨幣債務は16年半、銀引渡しは9年半、銅引渡しは10年に亘ることになった。そこでインスブルック政府は10月18日に、この借款計画に関する詳しい見透しを国王に回答したが、フガー社を融資相手として考えるのは難かしいとされた。

フガー社に対する国王の大口借款の試みは、こうして一頓挫を来たしたが、その代り小口貸付の交渉は絶えなかった。顧問イルズングは1542年11月に、ハンガリアの冬の遠征のための15,000グルデンの借款と、大公女エリーザベトがポーランドに嫁ぐに必要な400マルクの精錬銀の調達について、フガー社と交渉する件で詳しい指令を受取った。アントンは長い間討議された4千グルデンの貸付を、1542年クリスマスに王室にもう1年認めることにした。

皇帝カルル5世はスペインで1542年の夏は痛風の激しい痛みに10週間も苦しめられた。ネーデルラントを戦乱の嵐が襲った7月から9月まで、皇帝はスペインの国会のため動けなかった。しかしフランス軍は9月9日にルクセンブルク市から撤退したので、皇帝は愁眉を開くことが出来た。皇帝は10月31日にグランヴェラをドイツに派遣して、摂政マリーアに自分の今後の計画を伝えさせた。

## 2

1543年のフガー社とオーストリア政府の業務関係は、会計局長マッシュヴァンダーが1月1日にフガー社からトルコ戦争続行のために4千グルデン受取ったことから始まった。皇帝からドイツに派遣されたグランヴェラは、インスブルックからニュルンベルクの帝国議会に赴く1月の旅でアウクスブルク経由の道を取ってフガー邸に泊った。この際、前年市参事会員となっていたハンス・ヤーコプ・フガーはゲオルク・ヴィーラント Georg Wieland 及びヤーコプ・ヘルブロート Jakob Herbrodt と共に21頭の馬でショーンガウ Schongau まで出迎えた。ハンス・ヤーコプから500金グルデンの入っている銀杯を贈られたグランヴェラは、銀杯は受取ったが中味の金を返して、「皇帝にお仕えしてこの方、貨幣や金の贈物を受け取ったことは未だない」と見栄を切った<sup>1)</sup>。

1) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil I, S. 254.

皇帝の大口借款要請を予期して、これを安く回避しようとしたアウクスブルクの大商社の思惑を外ずしたグランヴェラも、フガー社から大口の融資を受けることは出来なかった。1月23日までフガー邸に滞在したグランヴェラは、小さな軍隊を組織し、大砲の火薬を確保するための資金を調達出来ただけであった<sup>2)</sup>。

2) 「1543年にフガー家はグランヴェラから24,882グルデンを預かり、彼の命令でこの中から24,284グルデンをリールLierreの領主に支払った。疑いもなくそれはフランスに対してドイツで軍隊を配置するためであった。商会の給付の一部は火薬引渡しで生じ、例えばヴァンゲンWangenで12グルデンで10ツェントナー。恐らくウルム(240グルデン)とネルトリンゲン(612グルデン)の支払も火薬で清算された。」G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil I, S. 572. 「グランヴェラがアントンに強請出来た最大のものは3万ドゥカーテンで、この中著しい部分は現金でなく、砲兵隊に対する火薬供給で給付されることになった。」G. v. Pölnitz, *a. a. O.*, 2. Bd., Teil I, S. 255.

国王フェルディナントは兄の皇帝カルル5世に対して3万スクーディscudiと5万グルデン、妹のネーデルラント摂政マリーアに対しては10万ドゥカーテンを借りていたので、皇帝は債務を減らすためにナポリの2万ドゥカーテンの定期金を売却するようにフェルディナントに命じた。これに関する詳しい計算は1534年2月21日にナポリ当局宛てに出されたが、マリーアが毎年ナポリの御料局から受取っていた9,993ドゥカーテンもフガー社によって振替えられた。フェルディナントは2月26日にニュルンベルクの帝国議会からフガー社に対してナポリの収支について明細書を作るよう命じた。

1543年2月11日に皇帝はイギリス国王と秘密協定を結んで、相互援助を約束した。これはネーデルラント摂政マリーアを元気づけ、彼女は武装計画を推進するためドイツの金を受入れるのに努めたが、3月中に取られたこういう措置は大抵ガスパル・ドゥッチとエラスムス・シェッツが代行した。ニュルンベルクの帝国議会中フガー社のナポリの会計明細を検討したフェルディナントは、会社の措置を好意的に評価した覚書を付けて、3月にこれをインスブルック当局に送付した。

1543年3月にフガー社の支配人クルツは数日前にニュルンベルクに届いたニコラウス・コペルニクス Nikolaus Kopernikus の „De revolutionibus

orbium celestium“ 6 巻を皇帝に献上した。異端審問の対象となる地動説を唱えた書物を、旧教徒を社主と仰ぐ大商社の支配人が旧教徒である皇帝に渡したということは、ドイツのルネサンス時代が示した歴史の皮肉であった。

国王フェルディナントはポーランドに嫁ぐ姉エリーザベトの婚資をフガー社から融通して貰うため 3 月 30 日に顧問のバズィリウス・プレヒト博士 Dr. Basilius Precht をアントンの許に派遣した。だがプレヒト博士も、また介添えとして博士と同行した御料局顧問ケーフェンヒラーも、彼らの要望がフガー邸で聞き入れて貰えないことを発見した。彼らからこの報告を受けた国王は 4 月 5 日にニュルンベルクからアントンに宛てて書簡を送り、大公女の婚資の 3 分の 1 の給付をアントンが拒わったことは、如何に甚だしく彼を驚かしたかをアントンに伝えた。

ハープスブルク家とフガー社との長い付き合いの歴史で、主家の祝い事に金が必要な時に会社が金を出さぬことはなかった。従って 2 人の交渉人は王室に振りかかる「嘲弄と蔭口を防ぐために」何としてでもフガー社から融資を仰がなくてはならなかった<sup>3)</sup>。彼らの必死の努力によって、6 万グルデンか、或いは少なくとも 33,300 ハンガリア・グルデンをアントンは貸すだろうという感触を、2 人はやっと掴むことが出来た。

3) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil I, S. 264–265.

1543 年春のニュルンベルクの帝国議会については、アントンはすでにトリエント=ブリクセン領主司教クリストフ・フォン・マートルツェ Christoph von Madrutsch に宛てた 2 月 3 日の手紙で彼の懐疑的な判断を述べたが、この帝国議会は新教徒を除いた旧教徒のみから成る 4 月 23 日の最終決定でトルコ援助金を可決した。皇帝の財政及び外交政策に対してシュマルカルデン同盟側の賛同を得ようという試みは失敗に終わった。

スペインに在った皇帝カルル 5 世は 1543 年 5 月に戦闘準備を整えてイベ

リア半島を後にすることにした。留守中は16歳の息子フェリーペが摂政として残されたが、彼はこの年従姉妹のポルトガル王女マリーアと結婚し、彼女の婚資は皇帝の軍備に役立った。ポルトガル国王は婚資の半分15万ドゥカーテンをスペインで支払い、残り半分はアントウェルペンの手形で支払ったのである。皇帝がスペインから旅立つ前に秘書官フアン・バスケス Juan Vasquez はこの年の軍事費を100万ドゥカーテンと計算した。しかし実際に使える資金はその3分の1にも及ばなかったので、約70万ドゥカーテンの不足額は借款を仰がなくてはならなかった。5月の4日及び6日に皇帝はフェリーペに対する政治的遺言とも云うべき詳細な指令を与えて、5月12日にパラモス Palamós の港からジェーノヴァに向かった。皇帝は13年以上もスペインを留守にすることになろうとは、この時思っていなかったであろう。

ニュルンベルクの帝国議会からの帰途、再びアウクスブルクを訪れたグランヴェラは、皇帝がスペインを立った2日前の5月10日に、フガー邸からネーデルラント摂政マリーアに宛てて、アウクスブルクの金融界がハープスブルク家に対して模範的な援助用意を有していることを伝え、真先きにアントンの好意的態度を賞讃した。フガー社の好意は直ちに皇帝の反応を生じた。5月26日にジェーノヴァで皇帝は、既述の如くウルム市が異議を唱えていたフガー社のイレル架橋を<sup>4)</sup>、舟航を妨げないという条件の下に承認してフガー社の肩を持つことを明示した。

4) 拙稿、「アントン・フガーの企業と時代(II)」68頁。

グランヴェラは6月13日にはイタリアに在る皇帝の許に到着したが、それは皇帝がフランスと戦う前に教皇を味方にしようとしたからであった。皇帝と教皇の会見は6月21日にパルマ Parma 近郊のブッセト Busseto で行なわれた。75歳の頑固な老教皇パウル3世は19名のフランス派の枢機卿を残して14名の皇帝派の枢機卿と共にやって来た。教皇はハンガリアをトルコか



ら守るために4千のイタリア兵を出す意向は示したが、反フランス的な声明には一切反対した。皇帝の主張したトリエントの公会議についても結論に達せず、カルル5世の受けた印象は「彼の家の拡大を非常に考えている」ということであった<sup>5)</sup>。事実パウル3世の主目的はファルネーゼ家のためにミラーノを得ることにあった。教皇と別れた皇帝はブレナー峠を越えてドイツに急行し、ウルム、シュトゥットガルトを経てシュパイエルに赴き、ラインを下ってボン Bonn に向かった。

5) K. Brandi, *Kaiser Karl V.*, S. 415.

### 3

フガー社のニュルンベルク支店長ゲオルク・ホフマンは1543年6月9日に200ツェントナーの火薬を皇帝軍に調達した。またハンガリアの防衛に当たる「フガー家の歩兵部隊」の装備のため武器をニュルンベルクの兵器廠の在庫から渡したのもホフマンであった<sup>1)</sup>。会社のこういう協力的態度に答えて国王フェルディナントは6月12日にインスブルックにおいて、ビーベルバハ近郊のヘルベルツホーフェン Herbertshofen とエルリンゲン Erlingen の上級裁判権と狩猟権に関するフガー家のアウクスブルク司教座聖堂参事会との協定を承認した。同じ12日にアントンは上オーストリア政府の要請に応じて、パウムガルトナー及びハウク=ナイトハルト家と同様に2千グルデンを2乃至3か月間無利子で貸付けることを承知した。

1) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil I, S. 582.

だがアントンは6月16日にシュミーヒェンから国王フェルディナントに対して、ポーランドとシュレーズィエンの金をブレスラウからアウクスブルクに振替えることは目下不可能だと説明した。国王はフガー社のブレスラウ

支配人グリースシュテターが24,000乃至25,000グルデンの金をポーランドとシュレーズィエンの貨幣で受取ってアウクスブルクに振替えることを希望したが、会社は目下シュレーズィエンで余り取引を営んでいなかったのも、ブレスラウ支店にはザウエルツァプフが受取った金も振替の機会が無くて未だ大部分残っていた状態であった。しかしアントンは7月8日に国王のためにブレスラウからアウクスブルクへ1万グルデンを振替える約束をした。国王フェルディナントは予期した金額には達しなかったが、フガー社の協力的な態度に満足した。

1543年7月19日にイギリスの外交官モント Mont はヘンリ8世に次のような報告を送った。ハンガリアにトルコ軍が6月25日に侵入したので国王フェルディナントは援軍を送るのに懸命である、この援軍にフガー社は500名の歩兵の出兵分担を引受けた、と。7月29日にフェルディナントは上オーストリア政府に対し、オーフェンが7月21日に陥落したことを報じなくてはならなかった。同じ21日にアントンは、防衛のため200人の坑夫を坑道兵として送れという国王のプラハ指令をオーストリア政府が実行するのを支援することを約束した。

1543年7月26日にネーデルラント摂政マリーアはガスパル・ドゥッチから、彼女が依頼した5乃至10万グルデンの資金調達はポルトガル王室との取引に忙殺されたため出来なくなったという弁解を聞いた。だが翌27日皇帝のロンドン使節が摂政に書き送った報告では、英国の4万クローネンの援助金の半分はカレーのステイプル商人が9月18日までにアントウェルペンのフガー支店に渡し、以後も一切の面倒を見るという協定が成立したことを伝えた。だが、それでは急場の用に間に合わなかったのも、最初の金はグresham兄弟がヴェルザー社を通して8月半ば迄に摂政に渡すことになった。

国王フェルディナントは8月14日にプラハからティロール政府及び御料局に宛てて、次のような内容の書翰を送った。国王はフガー社から100ツェントナーの銅を借りたので、これはタウフェルス Taufers の銅から返済する

ことになった、と。8月17日に国王はカルル・フォン・ヴェルスペルク男 Karl Freiherr von Welsperg と 5,333 ツェントナーの銅買契約を結んで 12,000 グルデンの借款を受けることにした。これによってタウフェルスの銅はフガー社との契約が終わったならヴェルスペルクに移ることになったが、これはフェルディナントの官僚がバルカン Balkan における戦争遂行に如何に苦慮しているかを示すものであった。

8月23日に摂政マリーアは会計長官ハラーを通じて皇帝のスペイン軍隊が給与支払を受けたことを皇帝に通知させたが、この金はヘンリ8世から英国商人を通してアントウェルペンに届いたものであった。8月17日ボンに到着したカルル5世は、フランス国王フランソワ1世と結んで抵抗を続けているゲルデルン＝クレーフエ公ヴィルヘルムを討伐するため兵をデューレン Düren に進めた。フランス国王にもシュマルカルデン同盟にも見捨てられたヴィルヘルム公は9月6日にフェンロー Venlo で皇帝の前に跪いて許しを乞い、ゲルデルン公国とズュトフェン Zütphen 伯領を譲り、フランス及びデンマルクとの同盟を解消し、宗教改革を断念した。

インスブルック政府は8月18日にヨハン・フォイト Johann Voyt 博士とツィプリアン・モイヤル Zyprian Meurl に、財政難を緩和するための借款をアウクスブルクの商社と交渉することを委ねた。両人はフガー、パウムガルトナー、ハウク＝ナイトハルト家及びマティアス・マンリヒから各4千グルデンを半年間無利子で借りようと尽力した。どうしても駄目なら5%の利子を払う積りであったが、この借款については銀または銅買契約は結ばぬものとされた。この要請に対してフガー社は9月6日に希望された4千グルデンの貸付を与えた。

1543年8月23日のヴィーンの御料局文書の帝国公文書によると、アントンはフェルディナントの顧問ゲオルク・イルズング Gerg Ilsung の要請で国王の次の遠征を助けるために、将来のイギリスの援助金振替で 15,000 グルデン、またヴェネーツィアに対するフェルディナントの債権引当で 15,000 グル

デンの貸付を承認した<sup>2)</sup>。この貸付についてアントンは9月27日に、彼が支払った3万グルデンの明細を国王に示したが、その中にはビーベルスブルクのぶどう酒の未収金7千グルデンが計上されていた。この借款では未だ足りなかったのでイルズングの再度の説得に応じてアントンは、彼の貸付金を更に3万グルデン増額することを承認した。この取り極めは10月5日にプレスブルグで為され、ネーデルランドからシュヴァーベンへのイギリスの振替がフガー社でなくナイトハルト社によって引き受けられても35,000グルデンをイギリスの振替金で、またヴェネツィアからの支払いが4年間延びても25,000グルデンを貸付けることにした。

2) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil I, S. 280, 588. ゲオルクは前出イェルクと同一人。上述, 28頁。

アントンの国王フェルディナントに対する、この際立った好意的態度の理由を、ペルニッツは次のように推定する。「ザンクト・ヨアヒムスタールやイドリアでの権利をめぐる小さな争いが関係はしたろう。だが、それらは殆んど原因でなかったろう。ハンガリア鉱山に対する国王の保護についてのアントンの希望は、もっとも重要に思われた、何故ならこういう支援は会社のポーランドと中部ドイツの関係に有利に影響する筈であった。ティロールには本来の理由はなかった。シュヴァーツ、キッツビューエル、テルラン及びナルスのフガー銀の加工は、イエンバハ精錬所によって大きな特許なしに行なわれた。プラハで確認された会社に対する元利支払の払い過ぎは、明らかに再び相殺で片づけられる処置に過ぎなかった。むしろ主家とフガー家の共通の心配は、ドーナウヴェルトの宗教改革の拡大であった。それはハープスブルク並びに帝国管轄区の持主にとって、シュマルカルデン同盟に対する帝国の関係への反作用の故に危険となり得た。だがアントンの愛想の良さは、恐らくパウムガルトナー家の領地拡大と関係した。と云うのは、会社はこれによっ

てヴァイセンホルンのその領地の一部が脅かされると感じた。」<sup>3)</sup> フガー家は 10 月 6 日にヴァイセンブルク領の土地台帳をインスブルック政府当局に引渡すのを拒否した。それはハンス・パウムガルトナーが政府とイレルティセンのオーベンハウゼン Obenhausen を取得しようと交渉したことに関連していた。

3) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil I, S. 280–281.

#### 4

国王フェルディナントは 1543 年 10 月 7 日にプレスブルクから、フガー、パウムガルトナー、ハウク=ナイトハルト及びマンリヒの 4 社から 12,000 グルデンの借款を受けることに同意する旨を伝えた。グランを失った後はシュトゥールヴァイセンブルクを守ることが大切で、このためにはこの現金援助が必要であった。しかしアウクスブルクの商社とフェルディナントとの金融措置は、皇帝カルル 5 世のだんだん積極的になった軍事的、財政的政策によって覆われるようになった。皇帝は秘書官フワン・バスケスに宛てた 10 月 7 日の切迫した書翰で、彼の政策を遂行するための財政的必要を明らかにした。バスケスが知らされたのは、陛下がフガー及びヴェルザーに書翰を送って、締結された 20 万ドゥカーテンの手形の他に、更に 10 万ドゥカーテンを極秘で入手しようとしていることであった。この金は遅くとも 11 月 8 日までに調達さるべきであった。

だが皇帝の望んだアウクスブルクの商社との特権契約は 10 月 15 日にバルトロメウス・ヴェルザーとのみ成立した。ヴェルザー社はスペイン王子フェリーペと協定した 105,000 ドゥカーテンの特権契約に、皇帝に対する 6 万ドゥカーテンの貸付を計上した。フガー社が皇帝の要請に応じなかったのは、モルッカ船団で蒙った損害賠償の要求が拒否されたからであった。事件は 1536 年の失敗したモルッカ船団でフガー社が蒙った被害について、スペイン

宮廷における会社の支配人シュテッヘルを通して1539年5月13日にセビーリャのインド顧問会議に1万ドゥカーテンの損害賠償告訴をし、第2審で一部認められた訴訟を、インド顧問会議は1543年7月5日付けでバリャドリーで棄却して、王室に支払義務のないことが国庫官によって立証されたとした。フガー社の代理人ゼバスティアーン・ロドリゲス Sebastian Rodriguez は7月18日に、この判決を不服としてバリャドリーから告訴した。アントンは会社の業務を守るためには、彼の当然の要求を固執しなくてはならなかった。

フガー社のこういう態度はハーブスブルク家の利害に反するものであった。皇帝の秘書官コボスは10月27日に皇帝の指令を受けて42万ドゥカーテンの借款を実現する任務を負わされた。皇帝が最近受取った20万ドゥカーテンの借款は、すでに軍事費に使い果たされてしまった。ペルピニャン Perpignan でフランス軍に攻囲されているドイツ及びスペイン歩兵と提督ドーリアの艦隊は金を必要とした。同じ10月27日に王子フェリーペは、アントンがグランヴェラの要請で承認した52,000ドゥカーテンの貸付に対する返済の詳しい指令を伝えた。カラトラバ及びアルカンタラ Alcántara 騎士修道会並びにソリア Soria 及びプラセンシア Plasencia の教会から、フガー社の代理人であるクリストフ・フガー、ユストゥス・ヴァルター及びクリストフ・ヘルマンに対して返済が行なわれることとなった。

133,000グルデンを調達することになったガスパル・ドゥッチは10月29日にネーデルラント摂政マリーアに至急フガーと会談することを助言した。結局フガー社の支配人ヘルルの活躍によって、4万ドゥカーテンのイギリスの援助金について8千ドゥカーテンの残額のヴィーン振替は10月31日に成功した。しかし11月15日にバリャドリーで下されたフガー社のモルッカ船団損害賠償要求の訴訟の判決は否定的なものであった。但しこの判決主文は特定の問題に論議の可能性を開き、会社の代弁者としてロドリゲスは本社の指示で無用の攻撃を避けた。

1543 年 11 月 27 日アントンの家では娘マリーアが産まれた。こうしてアントンと妻アンナの間には 14 歳の長男マルクス, 13 歳の長女アンナ, 12 歳の次男ハンス, 11 歳の次女カタリーナ, 10 歳の 3 男ヒエロニムス Hieronymus, 6 歳の 3 女レギーナ Regina, 4 歳の 4 女ズザナ Susanna, 前年生まれた許りのヤーコブがいたから, 男 4 人, 娘 5 人併せて 9 人の子供がいる賑かな家庭となった。

12 月 13 日にネーデルラント摂政マリーアはフガー社のアントウェルペン支店から年利 12% で 31,800 リーヴル livre 借入れた。ハンガリア王妃の時代からフガー家に敵意を抱いていたマリーアは, ネーデルラント摂政になってからも顧問たちと共に出来るだけフガー社の拘束を受けまいと努めた。しかしブリュッセル宮廷はフランスに対して防衛するためにフガー社から財政援助を仰がないわけには行かなくなった。

12 月 20 日にカルル 5 世はブリュッセルでフガー社の支配人ヘルルと特権契約を結んで, 266,500 ドゥカーテンの援助を取付けた。カンブレをフランス軍から守るためには, スペインとドイツ兵士を募集する必要がある, 彼らを翌年 4 月中旬まで駐留させなくてはならなかった。12 月 31 日に皇帝はブリュッセルから息子のフェリーペに対し, 父の出費のために翌年は 40 万ドゥカーテンを調達するように要求した。ネーデルラント貨幣市場の枯渇はすでに著しく, 皇帝はフガー社に頼る他はなかった。40 万ドゥカーテンの借款協定はフガー家の前貸を差し引くと 133,500 グルデンしか残らなかった。フェリーペは更に 10 万ドゥカーテンを工面しなくてはならなかった。

## 5

1544 年 1 月 2 日皇帝カルル 5 世はシュパイエル帝国議会のためブリュッセルから出発する際, アウクスブルク市に対して, 自分はシュパイエルに赴くから市はそこへ使節を派遣せよと書き送った。アウクスブルク市長ヴォルフガング・レーリンガーは前年の 12 月 20 日に職務に疲れたと声明し

て、すべての役職を退いたが、彼がカルル5世に仕える積りはないと断言して市民権を放棄してプロテスタントの町シュトラースブルクに移住したことは、皇帝にとってアウクスブルクの動向に注意を払う必要を感じさせたのである。

上オーストリア政府は1544年1月5日に国王フェルディナントに対し、領内のトルコ援助金を担保にフガー、パウムガルトナー、ナイトハルト及びマンリヒの4社から12,000グルデンの貸付を半年間受ける許可を願った。

アントンは1月12日にニュルンベルクの支配人ホフマンに対し、ヨアヒムスタールより届いた4,311ターレルの清算について指示を伝えた。それはヨアヒムスタールでウォルフガング・ロールWolfgang Rollとウルリヒ・フォーゲルハイマーUlrich Vogelheimerがフガー社に保証した53,120グルデンの国王の負債が未払であり、アントンはヨアヒムスタールの支配人ゲオルク・ノイゼーセルGeorg Neusäßerに宛てた手紙でヨアヒムスタールの長官の怠慢によるものだと指摘し、その更迭を求めようと思った、その負債の償還と関連していた。

シュパイエルの帝国議会へ向う途中カルル5世は1月21日にクロイツナハ Kreuznach で教皇特使のアレッサンドロ・ファルネーゼ枢機卿を引見して、1527年のローマの却掠を引合にしてパウル3世とファルネーゼ家を威嚇した。その翌日1月22日にスペインの会計局長アロンソ・デ・バエサ Alonso de Baeça は皇帝に代わってフガー社の1万ドゥカーテンの手形を受取った。同じ22日に国王フェルディナントはプラハで、アントンが顧問イルズングの要請でハンガリア遠征のため前年1月5日に承認した25,000グルデンの貸付に対して、ヴェネーツィアで受取ることになっている75,000ドゥカーテンの未収債権を指定した<sup>1)</sup>。

1) 上述, 36頁。



帝国議会を開くために1月末にシュパイエルに着いた皇帝は、2月7日に彼の金融交渉人である秘書バスケスに対し、フランス軍の前進をピエモンテ Piemont、ミラーノ及びロンバルディーアで迎え討つために4千人の傭兵を得たいと書いた。皇帝軍はその後ナーポリに進軍を続けて教皇に圧力をかける筈であった。バスケスは軍隊の給与支払のために必要な18,000 エスクドス escudos の現金を、ナーポリの収入を担保にフガー社から調達しなくてはならなかった。

1544年2月12日にハーブスブルク家に対するフガー社の2つの貸付契約が締結された。246,538 ドゥカーテンの貸付契約は支配人ヘルルによってブリュッセルで契約され、20万ドゥカーテンの貸付契約はクリストフ・フガーによってバリャドリーで、フランドルンにおける支払委託の形で成立した。4千人のドイツ兵士募集のための18,000 エスクドスのバスケスの要請に対して、フガー社は2月15日に手形を引受ける保証がナーポリから得られる時にだけ署名出来るとした。

4月11日に皇帝はシュパイエルから、アウクスブルクに在った秘書バスケスに対して、ナーポリの金のために諒解を受けるのが難かしくてもフガーとヴェルザーの許での努力を続けなくてはならぬと書き送った。皇帝軍の戦費50万ドゥカーテンを確保するのに不足の34,000 ドゥカーテンをバスケスは4月中にフランクフルト、マインツ又はケルン宛の手形でフガー社から入手する努力を続けなくてはならなかった。

皇帝軍が4月14日にイタリアのチェレゾーレ Ceresole で蒙った敗北は、フガー社に対する軍資金融資の圧力を強めた。4月15日にアントンはアウクスブルクでバスケスに対して、小銃火薬のため遅くも聖霊降臨祭までに22,000 クローネンをアウクスブルクかニュルンベルクで渡すことを了承した。5月1日にスペインの会計長官バエサはフガー社の6千ドゥカーテンの手形を受取った。同日ヴェルザー社も4千ドゥカーテンをバリャドリーで渡した。シュパイエルからの皇帝の繰返しての督促によってバスケスが懇請したの

で、フガー社とヴェルザー社は5月2日に更に皇帝に対する給付を行なうことを引受けた。アントンはナーポリからの約束が届いていなかったにも拘らず3万ドゥカーテンを、そしてバルトロメウス・ヴェルザーは14,000ドゥカーテンを引受けた。

バスケスは5月10日に皇帝に宛てて出した手紙で、皇帝が1週間以内に5万エスクドス、6月8日に更に5万エスクドスをアウクスブルクとニュルンベルクで受取れることを伝えた。5月20日にバスケスが皇帝に報告したところによると、フガーの金で支払われるべき皇帝軍のための軍需品の購入は約29,000エスクドスに上った。同じ5月20日にフガー社はネーデルラントからアウクスブルクに9枚計29,500グルデンの手形を振替えた<sup>2)</sup>。

2) その内訳は次の如くである。ルカス・レムの相続人5,000グルデン、ヨアヒム・イエニッシュJoachim Jenisch 1,000グルデン、ハンス・ヘルヴァルト1,500グルデン、ピメル5,000グルデンと2,000グルデン、イムホーフ2,000グルデン、ティーフシュテターTiefstetter 2,000グルデン、ヤーコプ及びゲオルク・グライナーGreinerのためにヴォルフ・ライトヴィーゼルWolf Reitwieser 1,000グルデン、そしてバルトロメウス・ヴェルザー10,000グルデン。G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil II (1544–1548), 1967, S. 615.

5月29日に皇帝はフガー社の代表者としてのゼバスティアーン・クルツと112,5000ドゥカーテンの特権契約を結んだ。流石のフガー社の資金もカルル5世に対する貸付によって枯渇し、アントンは6月初めにこれ以上の信用を認めることは出来ないと言明した。おまけにナーポリ副王はバルバロッサの艦隊に対する恐れとイタリアの不穏な情勢のため、彼の手持貨幣を皇帝に渡すのを拒否した。

皇帝側のフェランテ・ゴンツァーガFerrante Gonzagaとヴィルヘルム・フォン・フェルステンベルクのルクセンブルクの奪還作戦は成功して、彼らは6月6日に入城した。そこで皇帝は主隊をロートリンゲンLothringenの

メッツ Metz に集め、そこに 6 月 17 日から 7 月 6 日まで滞在した。皇帝が 4 万以上のスペイン、イタリア及びドイツの軍隊を閲兵したメッツの観兵式は輝かしいものであったが、それは主にフガー社の金融援助によって保持された軍勢であった。6 月 10 日にフガー社はシュパイエルからの皇帝の命令で、メッツを支払地とする 800 エスクドスの振替を行なった。

フガー社の支配人クルツはアウクスブルクから 6 月末に皇帝に宛てて、アウクスブルクの法律顧問クラウディウス・ピウス・ポイティンガー博士と委託通り交渉して、博士に 9 万グルデンを調達する用意をしたことを報告し、こう書き記した。「私は私の主人と最近のスペイン手形の履行のために相談致しました。主人は出来るだけの努力をしたいと申ししておりますが、この地ドイツでは主人はそう早急な資金を見出だすことは出来ません。」「そこで主人はイタリアから出来るだけ多くを調達しなくてはなりませんでした。彼は今か今かと其処からの金を待って居ります。そうなれば直きにフワン・バスケス殿は出来るだけ多額の金を金貨で渡されるであります。」「<sup>3)</sup>

3) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil II, S. 48–49.

1544 年 7 月 1 日にアントンは、最近の政治状況をアントウェルペンから報告して来た支配人ヘルルに対する返事の書面で、「皇帝陛下が成功して勝利を占め、いつかフランス人に当然の報いを与えれば良いと思います。そうなればキリスト教界の不倶戴天の敵に以後一層良く手向かうことが出来ましょう」と記した<sup>4)</sup>。アントウェルペン人ヘルルがネーデルラントから上ドイツに過大な振替を行なって、その金融負担を転換しようとした時、「君はだがそんなに法外にこういう手形を避ける」と非難したアントンも<sup>5)</sup>、フランスの戦場における皇帝の勝利がトルコ防衛と連動していることを充分承知していた。

4) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil II, S. 49–50.

5) G. v. Pölnitz, *a. a. O.*, 2. Bd., Teil II, S. 48.

## 6

1544年7月8日に上オーストリア政府は、ヴァイセンホルン市と高権領主であるフガー家との市条令及び下級裁判権をめぐる不和を調停して、和解契約を成立させた。争点は32あり、年市、市民の財産及び狩猟に対する規制、市の見張番及び書記並びに領主の出納係と代官に関する件、十分の一税、水車、漂白、漂白検査官、領主の木材売却、市への市民の受入、市内のフガー社持家の家賃、皇帝勅令公示義務、控訴事件、裁判所書記、ご聖体の祝日の行列の際の出納係の義務、市に対するフガーの債務と云われるものと農民戦争の費用、墓地、市外での屠殺条令、2つの浴場等についてであった。アントンの高権資格を略述し、自治体的及び経済的な意見の違いを片付けたフガー家とヴァイセンホルン市との契約は、フガー家が出納係が市条令を尊重し、また市は高権者であるアントンに忠実に仕えるという条件で領邦君主の承認を受けた。ティロールの官房長ベアトウス・ヴィーデマンによって署名された、このインスブルック政府の決定は、自治体の利益は守ったが、ヴァイセンホルンにおけるフガー家の権威を強調したものであった。

その前日7月6日に皇帝はメッツで秘書バスケスに全権を与えて、フガー社から軍資金を調達することを督励した。この日カルル5世は、軍資金不足のために9月半ば以前に彼の軍隊を解散することを余儀なくされるなら、これ迄支出された大金が失われるのみでなく、彼の声望は傷われるとして、こう記した。「この軍隊がかかる情勢において解散せらるる時は、朕が所領及び諸国は如何なる保障を有するか分らぬことになろう、何となれば朕はそれを情勢緩和のため、またフランス国王に有益確実な平和を強要するために配置したのである。」<sup>1)</sup>

1) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil II, S. 52.

皇帝の指令を受けたバスケスはフガー及びヴェルザー両社と 20 万エスクドスの融資について相談して、両社がこの金をフランデルンで調達するなら、両社に対してスペインと新世界において考え得るあらゆる保証を提供することになった。バスケスの努力は稔って 55,385 ドゥカーテンの他に 6,662 エスクドスをフガー社から調達出来た。しかしバスケスが病気になったため、両社との 20 万エスクドスの協定は成功しなかった。調達された金は 8 月半ばまでに必要とされた額の半分に過ぎなかった。

アントンは 7 月 12 日にハープスブルク家に対し前貸する他はないと決意した。フガー社はこの 3 月から王室に約束した以上の 552,000 ドゥカーテンを支払ったが、それはアントンが会社の財産と知人の資金を導入することによって調達したものであった。フランスに進軍してマースを渡ってマルヌ Marne の溪谷を下ってパリを目指した皇帝軍は、サン・ディズィエ St. Dizier の要塞で頑強な抵抗に出会った。オラニエ王子でナサウ Nassau の相続人である若いルネ・デ・シャロン René de Chalon は塹壕で敵軍の弾により致命傷を負って 7 月 21 日に死んだ。

皇帝軍の資金調達のため予備金を殆んど底まで使い果たしたアントンは、ヘンリ 8 世の軍事行動に最後の希望を托し、7 月 22 日にネーデルラントに在る支配人ヘルルに宛てて、こう記した。「そこでイギリス国王はこの 15 日にも、やって来る筈だ。そうになってほしいものだ、そして彼がブーローニュ Bouloignais (= Boulogne) でフランスに対して大いに成果を納めることを願う。」<sup>2)</sup>

2) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil II, S. 54.

サン・ディズィエの要塞を包囲した皇帝軍は、偵察によってマルヌ下流のヴィトリ Vitry から砲撃されていることを知った。ヴィトリの攻撃に向かった皇帝軍の特遣隊は 7 月 24 日にこれを占領し、その際城壁外での騎兵戦に勝

利を博して、フランスの司令官ブリサック Brissac の司令旗を分捕った。ヴィトリの戦勝によって戦場の大勢は決せられた。フガー社の7月中の支援は172,885 ドゥカーテンに達した。

カルル5世は7月20日に妹のネーデルラント摂政マリーアに宛てて、アウクスブルク、アントウェルペン、スペイン及びジェーノヴァからの資金調達を併せても、彼の軍資金は9月25日までしか保つまいと書いた。従って彼は後2か月余で決着をつけなくてはならなかった。武力で解決つかぬことは外交で片づけなくてはならない。7月30日にフランス王子オルレアン公の待従長がグランヴェラの許に、公とスペイン王女との結婚及びミラーノの授封という提案を持って訪れた。グランヴェラはこの提案を拒否したが、その訪問がフランソワ1世の諒承を受けたものであることが分かったので、連絡を絶つことはしなかった。

8月14日に皇帝はバスケスに対して、王室の定期金、税金及び家産と並んで、主としてカスティーリャの騎士修道会の収入を担保にして、フガー及びヴェルザー両社の許で新たに10万エスクドスを手に入れるように指示した。8月24日に皇帝の手紙を受取ったバスケスは、フガー及びヴェルザー社に再び5乃至10万ドゥカーテンの融資を要請した。8日以内に援軍が来ない場合は降伏すると8月9日に申し出たサン・ディズィエの守備隊は、17日に大砲と弾薬を残して退却して、要塞を明け渡した。そうして皇帝軍はマース中流とマルヌを支配した。

会計長官アロンソ・デ・バエサは8月31日にアントウェルペンから皇帝に宛てて、12,000 エスクドスを飛脚で送ったことを報告した。これはフガー及びヴェルザー両社が、アウクスブルクの特権契約から支払う筈のすべての金であった。他に7,109 エスクドスがナーポリの金から来たが、この送金は8月26日に行なわれ、更に8月30日に29,533 エスクドスの送金が荷車で行なわれた。最後に8月31日に使者が持って来た12,666 エスクドスがあった。

アントンは9月2日付けの支配人ヘルル宛の手紙で、「皇帝陛下はシャロン

Châlons に赴き、良く相談して長く続く平和を結ぶために王妃とフランスの元帥が其処に来ること」を伝えた<sup>3)</sup>。皇帝から全権を与えられたゴンツァーガ及びグランヴェラとフランス側の代表者との秘密の和平交渉は、ビトリとシャロンの間のマルヌ川の北方サンタマン St. Amand で行なわれ、ブランディによると「9月6日から10日までに本来の決定が生じた。」<sup>4)</sup> 皇帝は10日にマルヌ溪谷を立て、パリには向かわず北方ソワソン Soissons に向かった。

3) G. v. Pölnitz, *Anton Fugger*, 2. Bd., Teil II, S. 58.

4) K. Brandi, *Kaiser Karl V.*, S. 433

会計長官バエサは9月14日にアントウェペンから皇帝に報告した通り、金を積んだ荷車を前線に送って来た。ヴァレンシェンヌ Valenciennes とメッツに向かったこの積荷は計139,729 エスクドスであった。同じ14日にブローニュはイギリス軍の攻撃により陥落した。アントンは16日にアウクスブルクから支配人ヘルルに対し、55,385 ドゥカーテンの特権契約のスペイン向け伝達を承知したことを知らせて、皇帝の企画の財政的崩壊を防ぐための適切な措置を構じた。

ブローニュ陥落の報告を4日遅れて18日に受取ったフランソワ1世は平和を結ぶことにし、19日のクレピーCrépyの秘密契約でカルル5世と単独講和を結んだ。19日に皇帝は妹の摂政マリーアに宛てて、たった今フランス国王の一方的義務を記した文書を、正式にオルレアン公を通して受取ったと書いた。この秘密契約でフランソワ1世はイタリアを放棄し、福音派のドイツ等族との一切の同盟を断念し、また来たるべき公会議への参加を約束した。この秘密契約は明示された両王朝の結婚協定で覆われた。カルル5世の娘マリーアか、またはフェルディナントの娘アンナがオルレアン公と結婚し、前者の場合はネーデルラント、後者の場合はミラーノを婚資として与える。こ

の婚資の二者択一を含む決定を皇帝は4か月後に下そうと思った。何故ならフェリーペ王子と弟フェルディナントに相談しなくてはならなかったからだ。

アントンは限界までの戦争資金融資によって皇帝を助けてフランソワ1世に対する勝利を得させた。それは皇帝が資金の尽きる最終時点とした9月25日の一週間足らず前であった。

—— 1983年10月 ——